

日銀神戸

支店長の視点

山崎真人氏



6月に神戸に着任し、3カ月余りが過ぎました。この間、県内各地の経済関係者とお話する中で、兵庫県が、製造業の裾野が広い生産拠点で、かつ、540万人の人口を有する巨大な消費地であり、さらには豊かな自然と文化・歴史をもった魅力の溢れる地域であることを実感しています。

さて、経済指標をみると、当地経済は昨年に底を打って持ち直しの方向ですが、現在もなお新型コロナウイルス感染症の影響がみられます。個人消費は、サービス消費を中心に足踏み状態が続いています。百貨店の販売額やホテルの稼働率は例年を大幅に下回っており、観光地の入り込み客数も低調です。これを受けて、

県内の個人消費回復への期待

外食や宿泊など対面型サービスを提供する企業も厳しい業況が続いています。

しかし一方で、企業部門全体で見れば、主力の製造業は、外需を起点に生産や輸出が牽引役となって、しっかりと持ち直しています。コアな素材である鉄鋼をはじめ、世界的に好調な半導体の製造用機械、医薬品から、自動車や機械の塗料まで幅広い化学製品など当地企業が生産した多様な製品が世界経済の成長を支えています。足元では、家計部門と企業部門とのコントラストが特徴的です。

今後を展望すると、一足先に経済活動を再開させた海外諸国ではワクチン接種の進展と医療体制の強化で個人消費が持ち直しています。当地でも行政や医療関係者のご尽力により、こうした取り組みが進んでいます。しばらくは試行錯誤が続きますようが、個人消費を下押しする感染症の影響緩和、収束に向かっていくことを期待しています。